報告第1号

専決処分した事件の報告について

地方自治法(昭和22年法律第67号)第180条第1項の規定に基づき、和解について裏面調書のとおり専決処分したので、同条第2項の規定により報告する。

平成30年2月21日

提出者 足立区長 近藤弥生

和解調書

専決処分年月日	相手方	事件の概要	和解の要旨
平成 29 年 12 月 26 日	江戸川区北篠崎	平成 18 年 12 月 25 日付で貸付した応急小口資金	相手方は、足立区に対し、応急小口資金
	在住者	貸付金(貸付額 300,000 円)の償還について、計画	貸付金の償還残額 255,000 円を分割によ
		どおり償還がされず 255,000 円の償還残額があ	り毎月 20,000 円ずつ支払う。相手方は、
		る。借受人の所在が不明のため、連帯保証人あて、	支払いを怠り、その額が 40,000 円に達し
		顧問弁護士から送付した連絡書に対し「返済意思	たときは、残額及び延滞金を一括で支払
		あり」と回答があったため、区担当者から償還方	う。期限どおりに償還残額の全額が支払わ
		法について交渉した結果、分割納付の申出がされ、	れたとき、区は延滞金の支払義務を免除す
		合意書を締結し和解した。	る。
平成 30 年 1 月 9 日	神奈川県横浜市	平成 13 年 3 月 15 日付で貸付した応急小口資金	相手方は、足立区に対し、応急小口資金
	在住者	貸付金(貸付額 300,000円)の償還について、計	貸付金の償還残額 245,000 円を分割によ
		画どおり償還がされず 245,000 円の償還残額があ	リ毎月 5,000 円ずつ支払う。 相手方は、支
		る。借受人あて、顧問弁護士から送付した連絡書	払いを怠り、その額が 10,000 円に達した
		に対し「返済意思あり」と回答があったため、区	ときは、残額及び延滞金を一括で支払う。
		担当者から償還方法について交渉した結果、分割	期限どおりに償還残額の全額が支払われ
		納付の申出がされ、合意書を締結し和解した。	│たとき、区は延滞金の支払義務を免除す │ │
			3.
平成 30 年 1 月 9 日	神奈川県小田原	平成 21 年 11 月 12 日付で貸付した応急小口資金	相手方は、足立区に対し、応急小口資金
	市在住者	貸付金(貸付額 300,000 円)の償還について、計	貸付金の償還残額 150,000 円を分割によ
		画どおり償還がされず 150,000 円の償還残額があ	リ毎月 10,000 円ずつ支払う。相手方は、
		る。借受人が死亡しているため、連帯保証人あて、	支払いを怠り、その額が 20,000 円に達し
		顧問弁護士から送付した連絡書に対し「返済意思	たときは、残額及び延滞金を一括で支払
		あり」と回答があったため、区担当者から償還方	う。期限どおりに償還残額の全額が支払わ
		法について交渉した結果、分割納付の申出がされ、	れたとき、区は延滞金の支払義務を免除す
	+ 	合意書を締結し和解した。	3.
平成 30 年 1 月 9 日	荒川区荒川在住	平成9年5月1日付で貸付した婦人福祉資金貸	相手方は、足立区に対し、婦人福祉資金
	者	付金(貸付額 312,000 円)の償還について、計画	貸付金の償還残額 108,400 円を分割によ
		どおり償還がされず 108,400 円の償還残額があ	リ毎月 10,000 円ずつ支払う。相手方は、
		る。借受人あて、顧問弁護士から連絡書を送付し	支払いを怠り、その額が 20,000 円に達し
		たところ、本人が来所し、返済意思があるとの意	たときは、残額及び延滞金を一括で支払
		思表示及び分割納付の申出がされ、合意書を締結	う。期限どおりに償還残額の全額が支払わ
		し和解した。	れたとき、区は延滞金の支払義務を免除す
			る。